

新約聖書 ルカによる福音書 5章1節—11節 (新共同訳)

¹ イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。² イエスは、二そうの舟が岸にあるのを御覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。³ そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。⁴ 話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。⁵ シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。⁶ そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。⁷ そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。⁸ これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。⁹ とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。¹⁰ シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」¹¹ そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

説教「お言葉ですから」

ヒトラーのナチス政権が支配するドイツにおいて、主イエス・キリストへの信仰を守り、最後までナチスに屈せずに闘ったヘルムート・ゴルヴィッツアーという牧師がいました。

ゴルヴィッツアー牧師は、キリスト者であるとは「差別」と決別することであると熟知し、それを体現した人でした。

1930年代から起きた、ナチスの人種差別によるユダヤ人への迫害・大量虐殺をホロコーストと言います。ホロコーストとは、「焼き尽くす献げ物」を意味する古典ギリシア語（*ὁλόκαυτος* ホロカウトス）です。本来、「神に対する、羊や山羊を焼き尽くしてささげる献げ物」を表す言葉（レビ記 1:10）が、人間が人間を差別し殺すことを表す言葉として使われたのです。

人間が人間をいけにえとして焼き尽くそうとする、ホロコーストの黒い炎が燃え上がっていた時代の中で、ゴルヴィッツアー牧師は、果敢にこう述べました。

「至る所に、いけにえの火が燃え上がっています。神はその火を世界中に見ておられます。諸宗教のいけにえの火を、私どもの欲望の火を、私どもの理想の火を。その火に、私どもは、次から次へと財産を、また次から次へと隣人たちを、いけにえとしてくべているのです。」

本日の福音書には、イエスが起こしたゲネサレト湖（ガリラヤ湖）での大漁の奇跡をきっかけとして、イエスが最初の弟子であるシモン・ペトロを招いた、すなわち弟子になるよう招いて呼んだことについて記されています。

漁師シモンは、夜通し漁をしましたが、何もとれませんでした。そのシモンに、イエスは「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言いました（ルカ 5:4）。

シモンは、湖や漁について熟知しており、イエスからの指示に少し抵抗するような言葉を付け加えながら、こう答えました。「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」（ルカ 5:5）。

ゴルヴィッツアー牧師は、そんなシモンに、苦難と試練にぶち当たり、助けもなく、闘うことに疲れ果てた自分たちの姿を見ました。しかしそれでも、ゴルヴィッツアー牧師は、私たちがどのような状況の中にも、この時のシモンのように、イエスの立っているところに始まりがあるのだと言います。

「しかし、お言葉ですから」と言った時のシモンの「しかし」は、未来への希望へとつながる「しかし」でした。シモンのこの「しかし」からは、ナチスのアウシュビッツ収容所を体験したヴィクトール・フランクルの著書『それでも人生にイエスと言う』の「それでも」の部分が思い起こされます。

そして、イエスに自分自身を明け渡し、イエスの言葉に従ったシモンは、網が破れそうになるほどの、おびたしい魚を得ることができたのです。

この豊漁の奇跡は、シモンの罪の告白を促しました。イエスの神なる力を感じて恐れおののいたシモンは「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」とイエスに言いました（ルカ 5:8）。

この時、イエスに向かって罪の告白をしたシモン・ペトロについて、ゴルヴィッツアー牧師はこう述べています。「イエスの御前でくずおれるように告白するのである。自分はイエスのおそばに居ることは耐えられない、あるいはペトロのそばに居るのはイエスにとって耐えられないに違いないということである」。

本来なら、シモンはイエスにこう言うべきでした。「主よ、お助けください。わたしのもとにいてください。わたしは罪深い人間なのですから」と。

しかし、イエスの神なる力と栄光に恐れおののいたシモンは、逆にイエスを自分から遠ざけようとする言葉を発します。

シモンは、主イエス・キリストの力に触れて、今まで知らなかった自分の姿が見えたのではないのでしょうか。主イエス・キリストの光によって、自分のうちにある罪や闇が照らし出され、恐れにとらわれたのです。だからこそシモンは、イエスに自分から離れてもらいたいと願いました。しかし一方では、自分には

イエスが必要であり、こんな自分はイエスにすがりつく以外に救われる道はないと魂で感じたのでしょう。だからこそ、シモンはイエスの足元にひれ伏したのです。

そんなシモンに、イエスはこう言います。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」(ルカ 5:10)。シモンの罪の告白と悔い改めに対しての、イエスの祝福の言葉がそこにありました。「恐れることはない」とは、罪の赦しの言葉です。

そして、シモンと、その仲間のゼベタイの子ヤコブとヨハネが、舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従ったところで、本日の福音書は締めくくられています。

シモンは、罪の告白と悔い改めをし、すべてを捨ててイエスの弟子となりました。

「すべてを捨てて」とは、それまでの古い自分を捨てて、新たに生きることを意味しています。

全身を水に沈める洗礼(バプテスマ)は、罪の中にある古い自分の「死」を象徴します。洗礼による悔い改めとは、今までの古い自分に死に、新しい命に生きることです。それは一つの意味において古い自分が殺され、そこから新たによみがえることです。

主イエス・キリストは、聖霊と火によって、私たちに洗礼を授けます(ルカ 3:16)。それは「殺すことにおいて終わる火ではなく、生き返らせるための火」です。

ゴルヴィッツアー牧師はこう言います「主イエスは私たちにこのように告げます。『私はあなたがたの内に一つの火を、殺すと共に生かす火をともすために来た。私はあなたの人生の中に一つの火を投げ込むことによってあなたを救うために来た』」。

私たち人間の心の内には、聖なる炎と、黒い炎との両方が内在していると思います。しかし私たちは、主イエス・キリストによって投げ込まれた聖なる火を、尽きることなく心の内側に燃やし続けましょう。

私たちは、どんな時も希望を持ち、愛と喜びのうちに共に歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。

神様。いつも私たちと共にごさうございありがとうございます。私たちがいつもあなたからの愛の呼びかけに心を開き、隣人を愛し、希望と喜びのうちに生きて行くことができますように。救い主 御子イエス・キリストによって祈ります。アーメン

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 イザヤ書 6章1節—8節（新共同訳）

¹ウジヤ王が死んだ年のことである。わたしは、高く天にある御座に主が座しておられるのを見た。衣の裾は神殿いっぱい広がっていた。²上の方にはセラフィムがいて、それぞれ六つの翼を持ち、二つをもって顔を覆い、二つをもって足を覆い、二つをもって飛び交っていた。³彼らは互いに呼び交わり、唱えた。「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う。」⁴この呼び交わす声によって、神殿の入り口の敷居は揺れ動き、神殿は煙に満たされた。⁵わたしは言った。「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は／王なる万軍の主を仰ぎ見た。」⁶するとセラフィムのひとりが、わたしのところに飛んで来た。その手には祭壇から火鉢で取った炭火があった。⁷彼はわたしの口に火を触れさせて言った。「見よ、これがあなたの唇に触れたので／あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」⁸そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」

新約聖書 コリントの信徒への手紙 一 15章1節—11節（新共同訳）

¹兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。²どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。³最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、⁴葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、⁵ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。⁶次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。⁷次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、⁸そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。⁹わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。¹⁰神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。¹¹とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。

教会讃美歌 202番「東の空 明るみて」、276番「ああしたわし」、285番「シオンよ」。